

# 町内探検隊



今月の舞台 野寺町・寺領町・木戸町



三ツ川町内会長岩瀬さんにまちを紹介してもらいます。



◆コスモス畑  
野寺町は、5年前から休耕田(5427㎡)を利用したコスモス畑があり、まちの人を楽しませています。昨年10月には、コスモス鑑賞会を開催。かかしコンテストや保育園児の遊戯もあり、たくさんの人でにぎわいました。



素盞鳴神社のヤマモモ

◆素盞鳴神社の巨木  
寺領町にあるこの神社には、大きな木がいくつかあり、シイノキとヤマモモの2本が市保護樹木に指定されています。どっしりと構えた太い幹と枝ぶりは、見ごたえがありますよ。

◆58本の桜並木  
木戸町から藤井町の志貴野橋にかけて、矢作川堤1kmにわたり58本の桜が植えられています。まだ若木ですが、春に花が咲くのを楽しみにしています。桜の木で車道と歩道が分かれているため、まちの人が安心してジョギングやウォーキング、犬の散歩などを行っています。また、途中7カ所にベンチも設置されています。自然豊かで穏やかな、とても住みやすいまちです。



桜を境に歩道(左)と車道が分離

# わたしの望遠郷



京都府舞鶴市



私の故郷は、「岸壁の母」の舞台、京都府舞鶴市です。二十歳まで過ごしました。



舞鶴は、東舞鶴と西舞鶴に分かれています。西は城下町。私が育った東は、明治時代に天然の良港として、海軍鎮守府が置かれ、軍港の町として大きくな



赤レンガ倉庫群 提供：舞鶴市

りました。東の町の中心地区は、京都に習って整然とした碁盤目の町です。南北の通りは1条から9条まで、その外側と東西の通りには明治の軍艦の名が付けられています。富士・松島・厳島・三笠・高千穂などです。また、軍港時代の名残で赤レンガ群があります。今も倉庫として使われているほか、レンガ博物館にもなっています。この倉庫群は、「男達の大和」という映画のロケにも使われました。

東西の境目にある五老岳からは、リアス式海岸若狭湾のさら

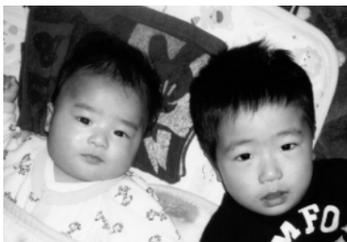


五老岳から見た舞鶴湾 提供：舞鶴市

に奥の舞鶴湾を眺めることができ、自慢の景色です。冬場のズワイカニの水揚げは、府下一です。子どもの頃は、雌のカニが1匹10円で、おやつによく食べました。岩カキや鳥貝も有名で、テレビの番組にも紹介しました。ぜひ、皆さんも足を運んでみてください。  
横幕弘美さん(小堤町)

# 元気っ子アルバム

都築桜弥くん(2歳)  
快飛くん(5カ月)



仲良し兄弟の桜弥と快飛です。お兄ちゃんは、いつもトーマスのおもちゃで遊んでくれます。そんなお兄ちゃんが大好きです。お父さん：利和さん  
お母さん：真祐美さん(木戸町)



杉山彪牙くん(1歳)

歩けるようになってから、外で遊ぶのがとても楽しいです。今はアンパンマンが大好きです。お父さん：悠斗さん  
お母さん：彩葉さん(姫小川町)

近藤咲愛ちゃん(8カ月)



いたずら大好きおてんば咲愛です。リモコンが好きで、いつもガリガリしちゃうよ。離乳食をいっぱい食べて大きくなるよ。お父さん：光さん  
お母さん：亜由美さん(小川町)

「わたしの望遠郷」、「ほっとタイ夢」コーナーでは、市民の皆さんからの投稿をお待ちしています。詳しくは、電話で秘書課広報広聴係(☎71)2202)へ。掲載者には記念品を差し上げます。  
わたしの望遠郷→以前に住んでいたふるさとの思い出を紹介 ほっとタイ夢→夢や、ほっとする話を紹介

# ほっとタイ夢

夢は若い世代に新美南吉を広めること

「新美南吉に親しむ会」 会長澤田喜久子さん(住吉町)

◆南吉作品の魅力

私は、南吉の日記がとても人間くさくて、お気に入り。物語の中に、安城の町並みや、自分の住んでいる場所が出てきて、親しみを持ちました。南吉が勤務していた安城高校に私も通っていたので、話に出てくる校舎・作法室・料理実習室など、その当時の学校の様子も感じとることができます。

◆読書会は大切な時間

昭和52年に、「新美南吉に親しむ会」に入りました。月に一度読書会があり、この2時間はとても大切な時間でした。この時は子どもを夫に預け、南吉についてみんなで語り合いました。自分が好きなものに没頭できる

時間があったから、リフレッシュし、家事や育児をまた頑張ろうという気持ちになれたのです。

◆南吉を広めるために

昨年10月のサンクスフェスティバルで「南吉ギャラリー&カフェ」を開催しました。その会場で、朗読会を企画。会員に仕事を振り分け、パネルの飾りつけなどを1カ月で準備。当日は、南吉が18・19歳の時の作品を朗読しました。ほとんどPRしなかったにも関わらず、たくさんの方で会場がいっぱいになり、びっくりしました。南吉の話は心が温まります。

夢は、若い人に「どんぎつね」以外の作品にも興味を持

ってもらい、南吉をもっと広めること。平成25年は南吉生誕100年。安城で教壇に立ち、幸せな時間を過ごした南吉をこれからもPRしていきます。

